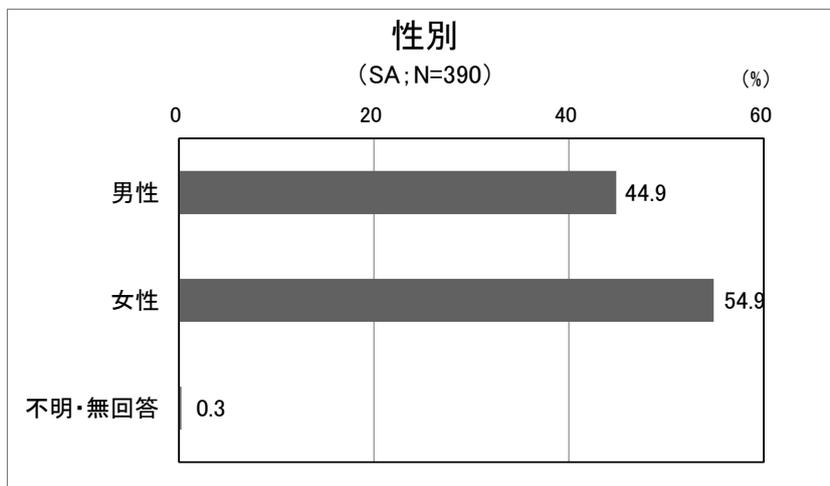


調査結果（市民アンケート）

（1）回答者属性

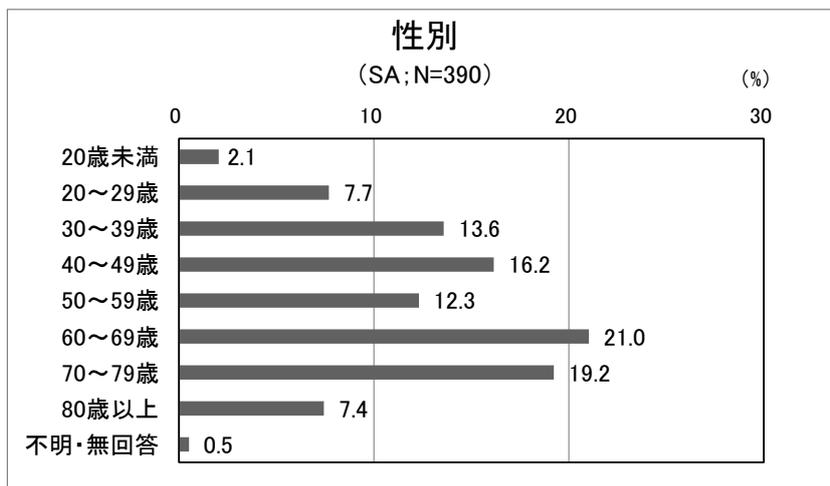
問1 性別

「男性」が44.9%、「女性」が54.9%となっています



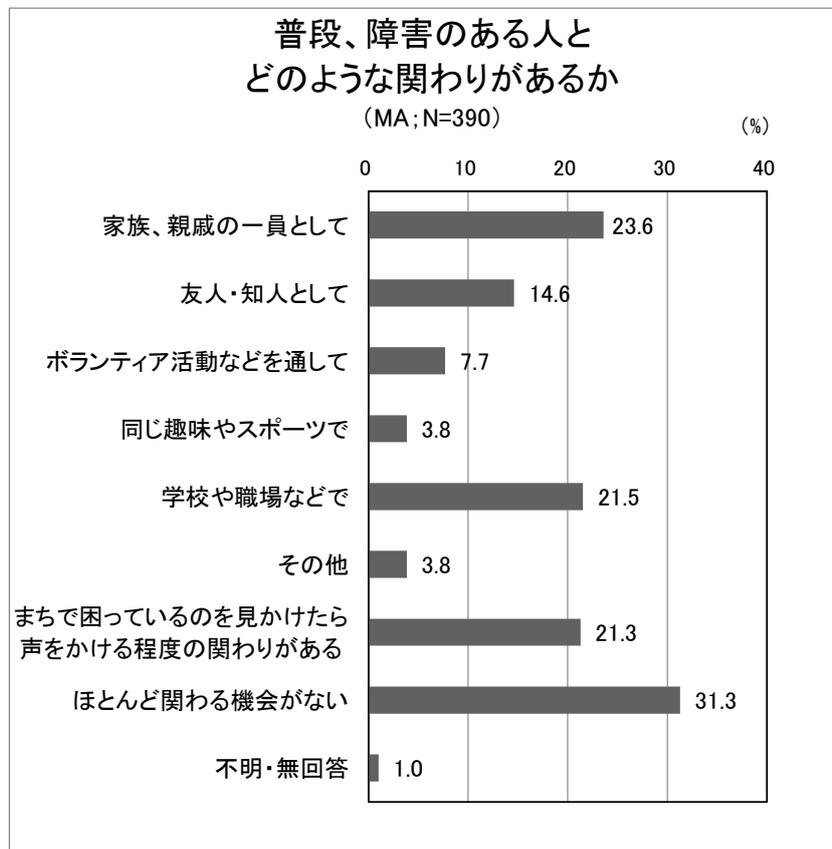
問2 年齢

「60～69歳」が最も多く21.9%、次いで「70～79歳」が19.2%、「40～49歳」が16.2%、「30～39歳」が13.6%などとなっています。



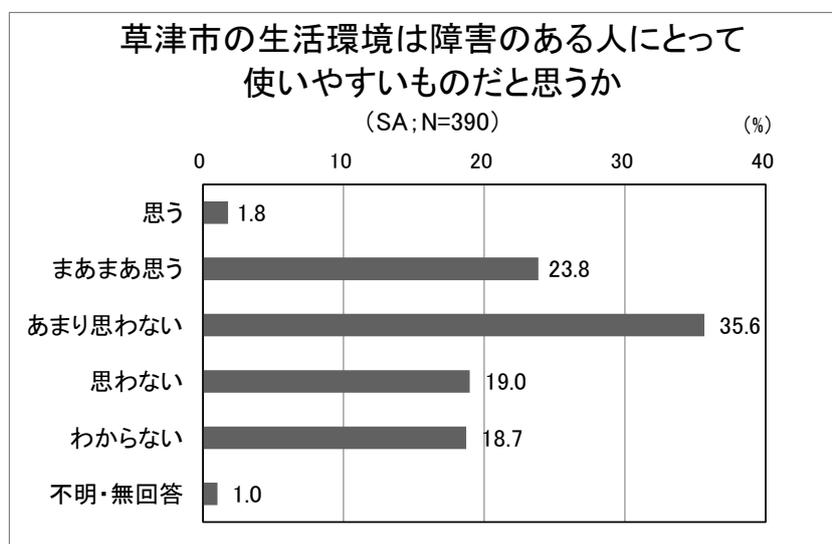
問3 普段、障害のある人とどのような関わりがあるか

「ほとんど関わる機会がない」が最も多く31.3%、次いで「家族、親戚の一員として」が23.6%、「学校や職場などで」が21.5%、「まちで困っているのを見かけたら声をかける程度の関わりがある」が21.3%などとなっています。



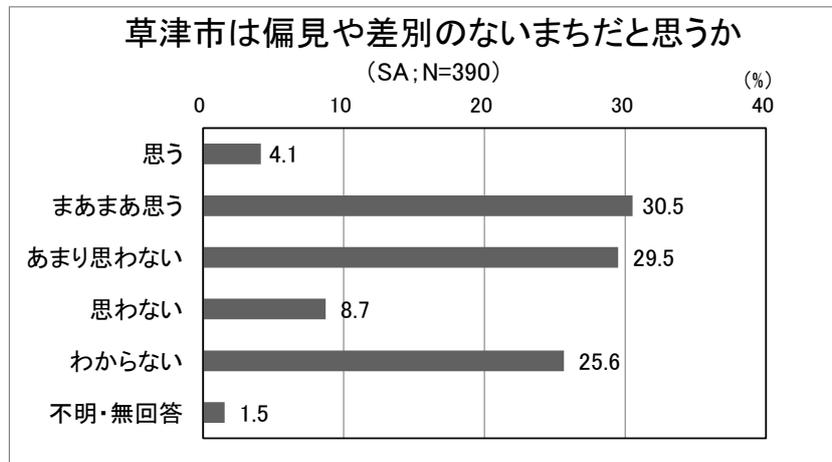
問4 草津市の生活環境は障害のある人にとって使いやすいものだと思うか

「あまり思わない」が最も多く35.6%、次いで「まあまあ思う」が23.8%、「思わない」が19.0%、「わからない」が18.7%などとなっています。



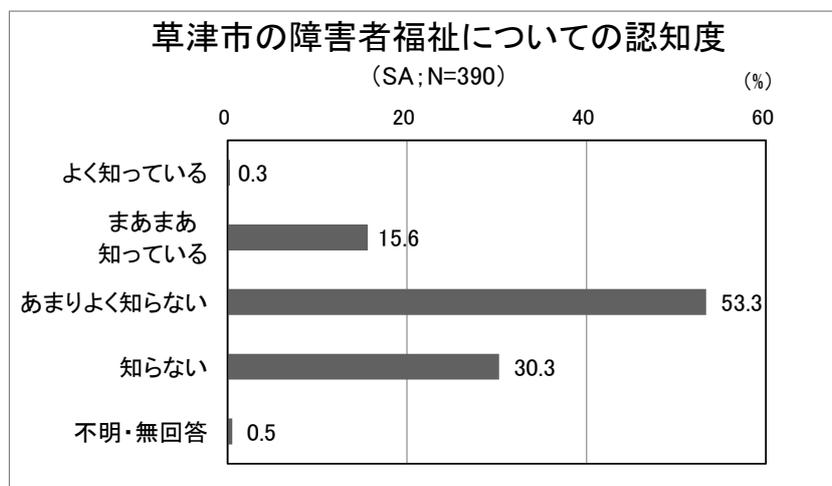
問5 草津市は偏見や差別のないまちだと思うか

「まあまあ思う」が最も多く 30.5%、次いで「あまり思わない」が 29.5%、「わからない」が 25.6%などとなっています。



問6 草津市の障害者福祉についての認知度

「あまりよく知らない」が最も多く 53.3%、次いで「知らない」が 30.3%、「まあまあ知っている」が 15.6%などとなっています。

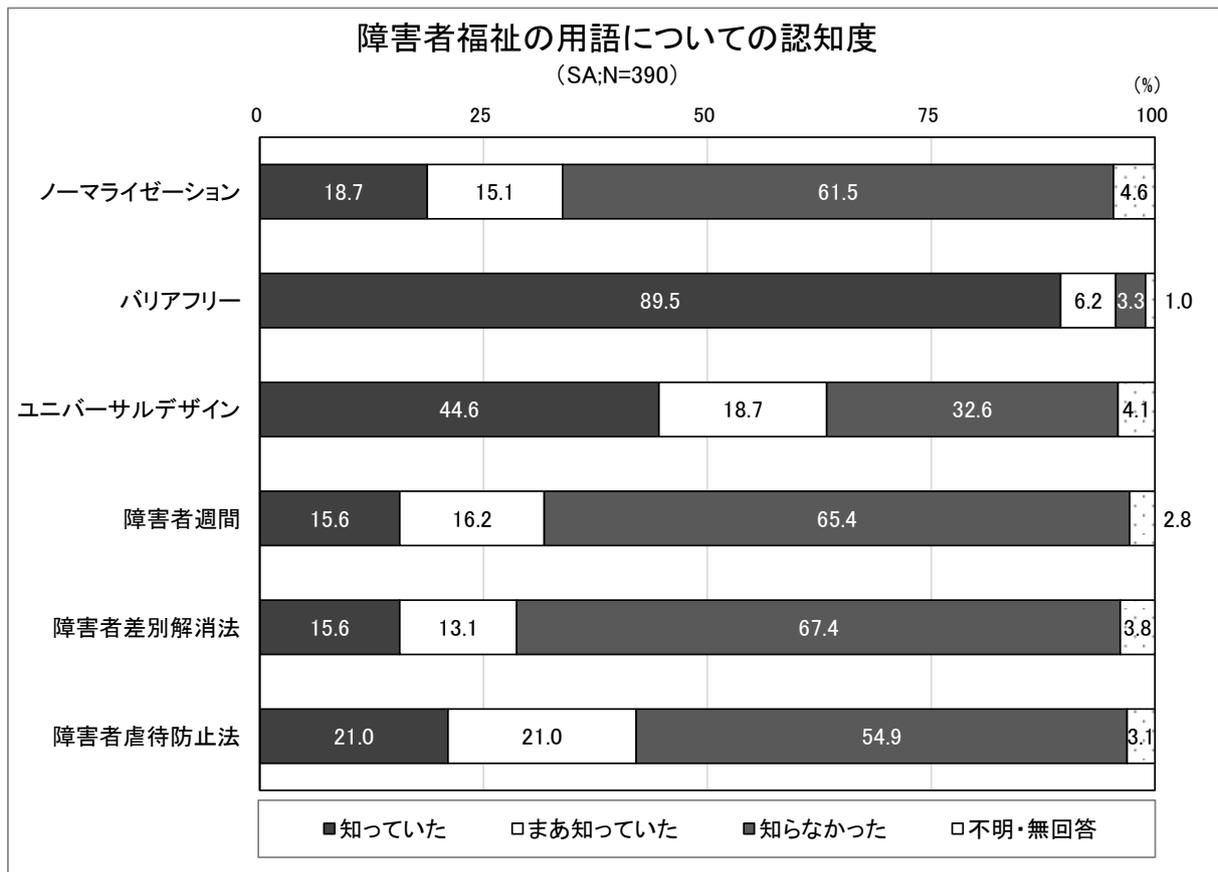


問7 障害者福祉の用語についての認知度

「知っていた」は「バリアフリー」が最も多く 89.5%、次いで「ユニバーサルデザイン」が 44.6%、
「ノーマライゼーション」が 18.7%などとなっています。

「まあ知っていた」は「ユニバーサルデザイン」が最も多く 18.7%、次いで「障害者週間」が 16.2%、
「ノーマライゼーション」が 15.1%などとなっています。

「知らなかった」は「障害者差別解消法」が最も多く 67.4%、次いで「障害者週間」が 65.4%、
「ノーマライゼーション」が 61.5%などとなっています。



問8 障害のある人々に関わるボランティア活動や交流活動についての関心

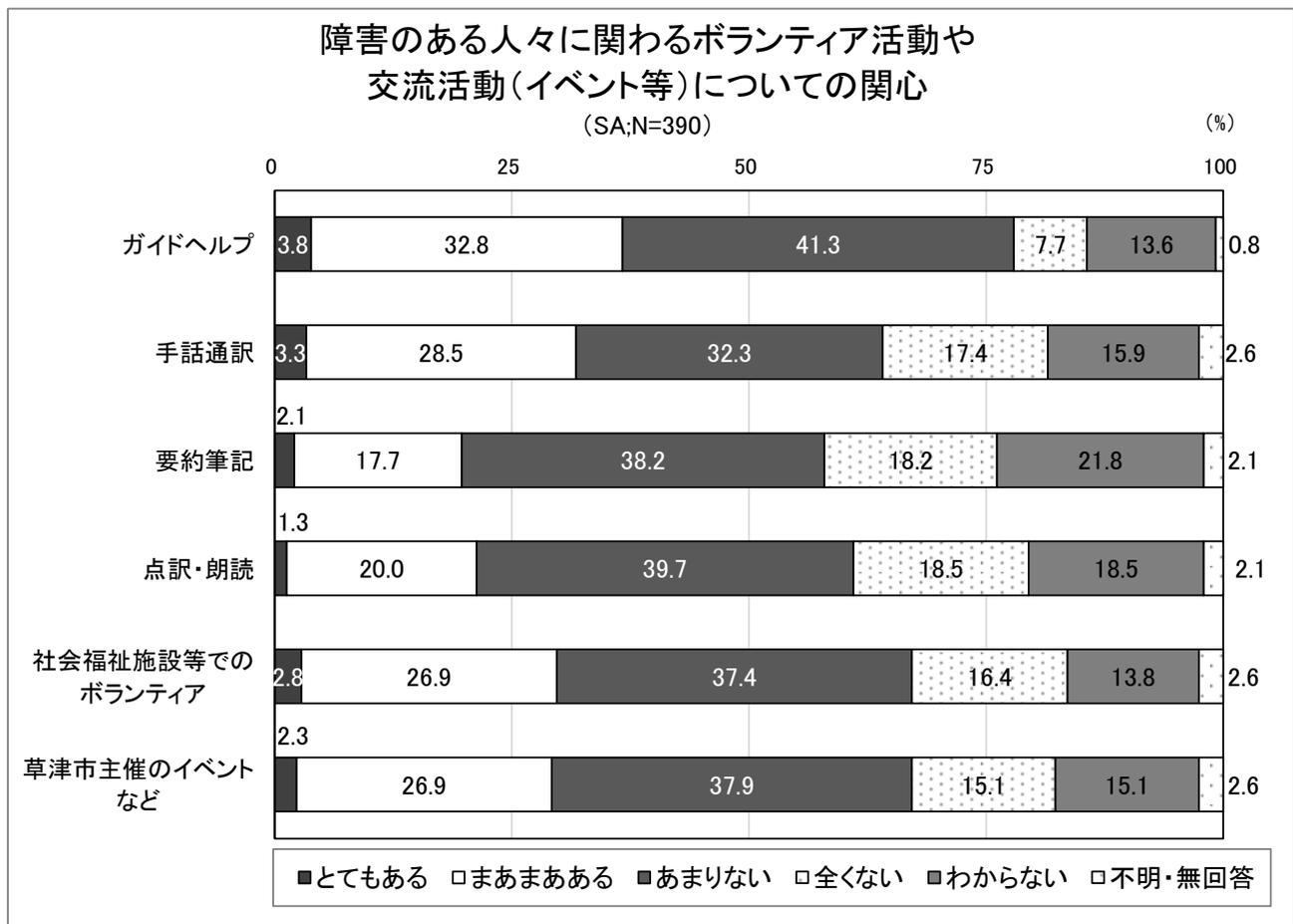
「とてもある」は「ガイドヘルプ」が最も多く3.8%、次いで「手話通訳」が3.3%、「社会福祉施設等でのボランティア」が2.8%などとなっています。

「まあまあある」は「ガイドヘルプ」が最も多く32.8%、次いで「手話通訳」が28.5%、「社会福祉施設等でのボランティア」「草津市主催のイベントなど」がそれぞれ26.9%などとなっています。

「あまりない」は「ガイドヘルプ」が最も多く41.3%、次いで「点訳・朗読」が39.7%、「要約筆記」が38.2%などとなっています。

「全くない」は「点訳・朗読」が最も多く18.5%、次いで「要約筆記」が18.2%、「手話通訳」が17.4%などとなっています。

「わからない」は「要約筆記」が最も多く21.8%、次いで「点訳・朗読」が18.5%、「手話通訳」が15.9%などとなっています。



問9 障害のある人とない人が、お互いに理解し合うために重要だと思うこと

「福祉についての教育を充実させる」が最も多く 27.7%、次いで「障害のある人とない人の交流の機会（イベント等）を増やす」が 26.2%、「さまざまな催しなどの情報を市民のみなさんにお知らせする方法を充実させる」が 21.8%などとなっています。

